

演者紹介

松田 慎三郎氏

(日本原子力研究開発機構取締役)

昭和20年生まれ。京都大学工学研究科修士課程修了後、日本原子力研究所入所。同研究所において核融合実験炉特別チームリーダー、ITER開発室長等を経て、平成14年には同研究所理事となり、平成17年より日本原子力研究開発機構執行役を務める。
今回の企画では、日本におけるトカマク型核融合研究の代表として日本原子力研究開発機構へ参加をお願いし、松田氏にご快諾いただいた。

疇地 宏氏

(大阪大学レーザーエネルギー学研究センター 教授)

岐阜大学工学部電気工学科卒業。岐阜大学工学研究科電気工学専攻修士課程修了。大阪大学工学研究科博士課程修了、工学博士。イェール大学応用物理学科助手等を経て1999年4月より大阪大学教授。現在の研究内容はレーザー核融合。
今回の企画では、慣性閉じ込め核融合を研究している阪大レーザー研の高部教授(「宇宙の核融合・地球の核融合」出演者)よりご紹介いただき、参加されることとなった。

山田 弘司氏

(核融合科学研究所 大型ヘリカル研究部プラズマ制御研究系 研究主幹)

東京大学工学部原子力工学科卒業。東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻修士課程修了。同、博士課程修了、工学博士。核融合科学研究所で研究を重ねる傍ら、文部科学省で学術調査官など幅広い社会活動も行っている。
今回の企画には、ヘリカル型核融合研究の代表として「宇宙の核融合・地球の核融合」に続いて参加いただいた。

高瀬 雄一氏

(東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授)

東京大学理学部物理学科卒業。マサチューセッツ工科大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。その後、同大学プラズマ核融合センター博士研究員、主任研究員等を経て97年東京大学大学院理学系研究科教授。99年より現職。
今回のITERプロジェクトなどでリーダーシップを発揮し、プラズマ物理・核融合研究において中心的役割を担う立場から参加をご快諾いただいた。

岡野 邦彦氏

(電力中央研究所 上席研究員)ーパネルディスカッションのみ参加

1977年東京大学工学部航空学科卒業。84年同大学院工学系研究科原子力工学専攻博士課程修了、工学博士。東芝研究開発センターを経て95年電力中央研究所入所。現在、電力中央研究所上席研究員を務める。東京大学新領域創成科学研究科においては連携講座(先端電気エネルギー工学講座)を担当し大学院生の指導に当たっている。
今回のパネルディスカッションには、実用炉の設計研究をする立場として、さらには核融合を電気事業の観点から評価する立場として参加していただく。

小川 雄一氏

(東京大学高温プラズマセンター長)ーパネルディスカッションのみ参加

1976年東京大学工学部原子力工学卒業、1981年同大学院工学系研究科原子力工学専攻博士課程修了、工学博士。名古屋大学プラズマ研究所助手、東京大学大学院工学系研究科教授などを経て現職。センター長として多忙な研究生活を送る一方、東京大学の学部・院で教育に携わっている。
今回のパネルディスカッションでは、核融合エネルギー開発の在り方、社会受容性を考慮しつつ発電路設計を推進している立場から議論に加わっていただくことになる。

立花 隆

(評論家・ジャーナリスト)

評論家・ジャーナリスト。1940年5月28日生まれ。1964年東京大学仏文科卒業。同年、文藝春秋入社。1966年文藝春秋社退社、東京大学哲学科入学。フリーライターとして活動開始。1995～1998年東大先端研客員教授。1996～1998年東大大学院総合文化研究科科学技術インタープリター養成プログラム特認教授。2006年10月より東大大学院情報学環の特任教授。また、2007年より立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任教授。